

近世の奄美・沖縄の世界



神奈川大学非文字資料研究センター/沖縄県立博物館・美術館 主催
2014年度 第3回公開研究会

『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編
からみえる近世の奄美・沖縄の世界

2014年10月26日(日)

13:00~18:00

沖縄県立博物館・美術館 講堂

参加自由 / 事前申し込み不要 (先着順)

後援: 浦添市美術館 石垣市教育委員会 名護博物館

【資料提供: 浦添市美術館 石垣市立八重山博物館 名護博物館】

問い合わせ先: 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター 事務局

Tel: 045-481-5661 (内線3532) Fax: 045-491-0659

<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/> <http://www.kanagawa-u.ac.jp/>



琉球交易港図屏風 浦添市美術館蔵

【報告者】
富澤達一 (非文字資料研究センター)
豊見山和行 (琉球大学)
得能壽美 (法政大学沖縄文化研究所)
川野和昭 (南方民俗文化研究所)
【コメンテーター】
田名真之 (沖縄国際大学)
真栄平房昭 (琉球大学)
津波高志 (琉球大学) 石垣博孝 (石垣市文化財審議委員)
本村育恵 (青山学院大学大学院)
【コーディネーター】
渡辺美季 (東京大学)
小熊誠 (神奈川大学)

《開催趣旨》

神奈川大学非文字資料研究センターでは、日本常民文化研究所が行った『絵巻物による日本常民生活絵引』の研究から受け継いだ「日本近世生活絵引」の研究を継続的に行ってまいりました。絵引研究とは、近世に描かれた絵画を題材として、そこに描かれた人々のしぐさやモノに対してその名称を記し、当時の庶民の生活を歴史的にも民俗的にも生き生きと描き出そうという趣旨の研究です。

2011年度から3年かけて、『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編を編集し、この度刊行されました。その研究成果報告会を、地元沖縄県で開催しようというのが今回の趣旨です。この新しい研究成果を広く県民に紹介し、視覚的効果の高い資料を活用した新しい展示や歴史教育、民俗理解へつなげることを目的として、県立博物館で開催することとなりました。

この研究で取り上げたのは、「琉球交易港図屏風」（浦添市美術館蔵）、
「八重山蔵元絵師画稿」（八重山博物館蔵）、「琉球寫真景」（名護博物館蔵）の3点です。その絵引研究に直接携わった方々に、その研究からみえてきた近世における奄美・沖縄の世界について語っていただき、さらにコメントをつけて絵引研究の面白さを沖縄の方々にお伝えしたいと思います。

《会場》

沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

Tel : 098-941-8200 (代表)

Fax : 098-941-2392

<http://www.museums.pref.okinawa.jp/index.jsp>

《プログラム》

開会挨拶：内田青蔵（非文字資料研究センター長）

安里進（沖縄県立博物館・美術館長）

開催趣旨説明：小熊誠（非文字資料研究センター研究員）

報告：「絵引研究について」 富澤達三（非文字資料研究センター）

「琉球交易港図屏風からみる琉球の世界」 豊見山和行（琉球大学）

「八重山蔵元絵師画稿からみる八重山の世界」 得能壽美（法政大学沖縄文化研究所）

「琉球寫真景からみる奄美の世界」 川野和昭（南方民俗文化研究所）

コメント：田名真之 真栄平房昭 津波高志 石垣博孝 本村育恵

コーディネーター：渡辺美季 小熊誠